



別所だより

横浜市立別所小学校

令和8年9月18日発行



夏の思い出 2026

校長 大島 宏二

例年だと夏休みが明けてもなお、厳しい暑さが続く9月のイメージがありました。ところが今年は、既に教室の冷房のエアコンを付けずに過ごせる日もあり、いつもよりも早い秋の訪れを感じています。

毎年私は子どもたちに、夏休みを翌日に控えた朝会で、何かに頑張ったと言える夏休みを過ごしてほしいと伝えていました。ただ今年は、“創立50周年を迎える年だからこそ別所小学校や別所のまちと積極的にかかわる夏休みを過ごせるといいですね。”と伝えました。そこで、夏休みが明けてまた元気に登校を再開した子どもたちに、どのような夏休みを過ごしたのかを聞いてみました。すると、「眠かったけど、家の近くの公園でラジオ体操に参加するのを頑張りました。」とか「近くの公園で開かれた夏祭りに友達と参加をして楽しみました。」「おうちの人と一緒にお祭りのお店の出し物にかかわりました。」といった、子どもたちなりに別所のまちとのかかわりを意識して過ごした言葉を聞くことができて、嬉しく思いました。

また、今年は、PTA役員の皆様による新規自主企画『びしょぬれ大作戦!』も校庭で開催されました。小学生が160名以上、保護者は30名以上、それに加えて末就学児や高校生ボランティアまで加わって、200名を超える大イベントとなりました。参加をした子どもたちや保護者からの感想をいくつかご紹介いたします。

「先生たちも参加をしてくれたので、先生に水をかけるのが1番楽しかったです!かき氷も食べられてうれしかったです。ごちそうさまでした。」

「夏休みにクラスメイトや先生に会えたのが嬉しかったみたいです。思い切り水遊びできる場所もなかなか無いので、たくさん遊ばせて頂き、大喜びしていました。」

「毎日暑く、公園で友達と遊べない日々が続いていたので、外で存分に遊べる機会を作って頂き、とても感謝しています。学校のみならず、先生と一緒に水遊び、という体験はなかなかできないと思うので、子どもにも親にも貴重な時間でした。みんなの楽しそうな笑顔を見て、こちらも嬉しい楽しい時間でした。」

私達教職員も10名程参加をさせていただきました。そして、職員からは、「夏休み明け直前の時期に実施したことで、子どもたちの登校への心的ハードルを下げるができたと思います。また、子どもたちと本気で水を掛け合うことで、私自身も子どもたちと会うことが楽しみな気持ちになり、夏休みが明ける少し寂しい気持ちが和らぎました。」との感想も寄せられました。

子どもたち・保護者・教職員にとって楽しい夏のイベントとなるように、夏休み中に何度も学校へ足を運び、安全で怪我無く、事故無く楽しい思い出になるようにと入念に準備をし、当日も午前中から動いて頂いたPTA役員の皆様方に、厚くお礼を申し上げます。